

公益財団法人痛風財団
平成28年度事業報告書

I. 概況

痛風・高尿酸血症分野に於ける我が国の研究は、関係者の不断の努力により慢性腎臓病や心血管障害との関係も明らかになるなど今や世界に冠たる水準にあるが、一方痛風の通院患者数は増え続けて現在約100万人・高尿酸血症患者数に至っては1,000万人に達すると推定されており、研究の更なる深化が求められて居る。これ等研究者を支援助成する当財団の活動は、診療に当たる開業医等一般医師を対象とした最新情報に関する研修会の開催や多くの人々への啓発活動と共に更に重要度が増している。平成28年度の財団事業は以下の如く研究助成事業をはじめとする各事業ともほぼ期首計画通りに遂行され、他方事業を支える財政面では各方面からの寄付や賛助会費及び資産の運用益等により今期総合収支はほぼ計画通りに推移した。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

平成28年度の研究助成は下記部門を対象として総額700万円の助成を行った。

- ① 痛風・高尿酸血症に関する臨床的色彩の濃い研究を対象とした「鳥居痛風学術賞」
- ② 痛風・高尿酸血症の関する基礎的色彩の濃い研究を対象とした「田辺三菱賞」
- ③ 痛風・高尿酸血症に関する一般的研究を対象とした「研究助成」

助成申請は「鳥居痛風学術賞」「田辺三菱賞」「研究助成」の3部門へ募集を行い、全国医学系大学82校や関係研究機関などに対して応募要項送付し、また財団ホームページや医学関係新聞雑誌でも公表して平成28年9月1日から10月28日まで応募を受け付けた。この結果平成28年度の応募総数は40件であった。

選考は理事長以下理事長より専門分野を考慮して委嘱された下記9名の選考委員が応募書類を事前に審査し、その結果を参考として平成28年12月9日開催の選考委員会で審議された。

鎌谷 直之	痛風財団理事長・ステージン医療人工知能研究所 所長
板倉 光夫	徳島大学名誉教授・東都春日部病院院長
上田 孝典	福井大学理事・副学長
小笠原 信明	愛知県心身障害者コロニー名誉総長
谷口 敦夫	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授

藤森 新 帝京大学医学部附属新宿クリニック院長
細谷 龍男 東京慈恵会医科大学慢性腎臓病病態治療学教授
森崎 隆幸 東京工科大学 医療保健学部臨床工学科 教授
山本 徹也 兵庫医科大学名誉教授

審議の結果、平成28年度研究助成対象者は以下の通り決定した。

- ① 鳥居痛風学術賞 1名 助成金額100万円
崎山 真幸（防衛医科大学校医学研究科）
研究テーマ：ゲノムワイド関連解析と fine mapping を用いた痛風の感受性遺伝子 *ALDH2* の同定
- ② 田辺三菱賞 1名 助成金額100万円
安西 尚彦（千葉大学大学院医学研究院薬理学 教授）
研究テーマ：尿酸を輸送基質とする腎尿細管トランスポーター分子同定
- ③ 研究助成 11名 助成総額500万円
1. 山内 高弘（福井大学医学部病態制御医学講座内科学(1) 教授）
研究テーマ：新規プリンクレオシドアナログ Forodesine による耐性白血病の克服
 2. 市田 公美（東京薬科大学薬学部病態生理学教室教授）
研究テーマ：慢性腎臓病の進行への尿酸及び関連遺伝子の影響
 3. 久留 一郎（鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻遺伝子再生医療学講座（再生医療学部門）教授）
研究テーマ：高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第3版改訂の作成
 4. 細山田 真（帝京大学薬学部人体機能形態学研究室教授）
研究テーマ：ヒト尿酸トランスポーターURAT1 のタンパク発現・精製の検討
 5. 金子 希代子（帝京大学薬学部臨床分析学研究室教授）
研究テーマ：食事中のプリン体値計算プログラムの構築と公開
 6. 藏城 雅文（大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 講師）
研究テーマ：腸内細菌環境と尿酸代謝との関連性の検討
 7. 富岡 直子（帝京大学薬学部人体機能形態学研究室助教）
研究テーマ：高尿酸血症を呈するアルツハイマー病モデルマウスを用いた病態解析

8. 荻野 和秀（鳥取大学医学部附属病院検査部准教授）
研究テーマ：酸化ストレスからみた左室拡張機能に対する尿酸降下薬の効果
9. 程 継東（汕頭大学医学院第一附属病院 教授）
研究テーマ：高尿酸により単球/マクロファージ細胞へインスリン抵抗誘導に関する検討
10. 高田 龍平（東京大学医学部附属病院薬剤部講師/第一副部長）
研究テーマ：尿酸降下薬による尿酸トランスポーター阻害を介した薬物相互作用
11. 松尾 洋孝（防衛医科大学校分子生体制御学講座講師）
研究テーマ：痛風と無症候性高尿酸血症の比較によるゲノムワイド関連解析で炎症の個人差に関わる遺伝子を同定する

2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

① 第27回医師対象痛風研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象に、今年度で27回目を迎えた痛風研修会を平成28年10月2日（日）に東京慈恵会医科大学講堂で開催した。

痛風協力医療機関などへの案内状やインターネット等を通じて聴講者を募り、一般開業医をはじめ医療関係者約200名の参加を得て高尿酸血症の診断及び治療の方法や最新の研究成果についての講義と活発な質疑応答が行われた。研修プログラムと講師は下記の通り。

★第1部 講演

1. 尿酸生成の治療標的 XOR：酵素学、代謝学、治療薬の作用について
西野 武士（東京大学大学院特任教授）
2. 痛風以上に怖い高尿酸血症
笠原 正登（奈良県立医科大学 病院教授）

★ランチョンセミナー

代謝疾患の大規模臨床研究とビッグデータ解析

—その可能性と現場応用—

曾根 博仁（新潟大学大学院医歯学総合研究科血液・内分泌・代謝内科学分野教授）

★第2部 講演

1. 痛風治療の最近のエビデンス(ガイドライン改訂に向けて)
谷口 敦夫（東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター）

一教授)

2. 高尿酸血症と神経疾患

野元 正弘 (愛媛大学大学院薬物療法・神経内科教授)

3. 高尿酸血症は **Bad Guy** ですか

箱田 雅之 (安田女子大学家政学部管理栄養学科教授)

★第3部 質疑応答

回答者

藤森 新 (帝京大学医学部附属新宿クリニック院長)

日高 雄二 (赤坂中央クリニック院長)

大野 岩男 (東京慈恵会医科大学総合診療内科教授)

尚、平成29年度第28回痛風研修会は9月10日(日)に東京慈恵会医科大学で開催の予定である。

② 痛風協力医療機関推薦

痛風研修会参加の一般医師などに呼びかけ、新たに3機関を推薦した。

この結果、平成29年3月末現在の痛風協力医療機関は全国で合計140機関となった。

新規推薦医療機関は下記の通り。

(A) 新規推薦

1. 東都春日部病院 (板倉 光夫 先生)

埼玉県春日部市大畑652-7

TEL 048-739-2000

2. たかはし内科クリニック (高橋 澄夫 先生)

兵庫県西宮市東鳴尾町2丁目1番23号

グラシオ武庫川1F

TEL 0798-43-0300

3. ひさこ内科クリニック (橋本 寿子 先生)

大阪府大阪市淀川区西宮原3丁目3-98

宮原クリニックモール1F

TEL 06-6948-6833

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は新たにスマートフォン向けウェブサイトを開設した結果年間100万件を超えるに至り、患者や家

族のみならず広く一般関係者に対しても有効な情報伝達手段として定着したと思われる。この為、その内容も更に充実すべく適宜更新しながら痛風・高尿酸血症についての知識や診療機関の情報を掲載して一般各位の便宜に供して居る。

② 一般からの質問への対応

一般患者や家族などからのメールや電話での質問も連日寄せられた。内容は矢張り診療機関の紹介依頼が最も多く、その他は発作時の対処方法や食事に関する事などで、これ等の質問に対しては都度財団関係の専門医師等に問い合わせその回答内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」を発行し、全国の協力医療機関等を通じて一般に配布すると共に、平成28年8月と平成29年1月に会報を発行した。

8月発行の会報第83号は平成27年度研究助成鳥居痛風学術賞受賞の東京慈恵会医科医学腎臓高血圧内科客員教授の栗山哲先生の「鳥居痛風学術賞」を受賞して」と、同じく田辺三菱賞受賞の鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻遺伝子再生医療学講座（再生医療学部門）教授の久留一郎先生の「細胞内尿酸による翻訳後修飾を介する臓器リモデリングの機序解明と高尿酸血症による臓器障害の新規治療法開発」と題する研究の背景やその後の進展状況などに関する一文を掲載し、1月の会報第84号には財団役員各位からの寄稿文を掲載した。

また、平成28年8月には同年3月に逝去された財団創立者の御巫清允前理事長を偲ぶ追悼特別号を発刊した。

以上